



平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



As-me ESTELLE

平成23年2月7日

上場会社名 As-meエステール株式会社

上場取引所 大

コード番号 7872 URL <http://www.as-estelle.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 丸山 雅史

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 渡邊 正直

TEL 03-5777-5120

四半期報告書提出予定日 平成23年2月9日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	20,722	1.1	1,121	121.9	1,160	138.4	619	—
22年3月期第3四半期	20,505	△7.7	505	434.1	486	—	55	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	55.46	—
22年3月期第3四半期	7.43	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第3四半期	30,851	9,423	30.5	844.63
22年3月期	31,948	8,953	28.0	801.69

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 9,423百万円 22年3月期 8,953百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
23年3月期	—	0.00	—		
23年3月期(予想)				16.00	16.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	27,801	0.6	1,552	68.5	1,664	81.7	849	118.4	76.04

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.3「その他」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 有

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	23年3月期3Q	11,459,223株	22年3月期	11,459,223株
② 期末自己株式数	23年3月期3Q	302,385株	22年3月期	290,338株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	23年3月期3Q	11,162,841株	22年3月期3Q	7,422,076株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料における予想数値及び将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、経営環境の変化等により、本資料の予想数値または将来に関する記述と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	2
2. その他の情報	3
(1) 重要な子会社の異動の概要	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	3
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) セグメント情報	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業部門では、政府の景気刺激策による下支えや新興国の景気拡大の牽引により、業績の回復が見られました。また、個人消費においては、給与所得や雇用環境が穏やかながら好転するなか、上半期までは政府のエコカー補助金給付などの底上げもあり、改善がみられましたが、下半期に入り、政策的消費底上げが途切れたことなどから、第3四半期会計期間では小売販売額や消費支出は前年を下回りました。

また、当社の経営環境としては、当社の主な出店先である大型商業施設の売上高が低調に推移し、依然として厳しい状況にありました。

以上の状況の下、店舗展開としては、当第3四半期連結累計期間において当社では3店舗を出店、4店舗を閉鎖し、当四半期末店舗数は379店舗（前年同期末393店舗）となり、メガネ小売のキンバレー(株)では3店舗を出店、1店舗を閉鎖し、40店舗（前年同期末36店舗）となりました。営業施策としては、合併したあずみ(株)との販売促進企画や店舗運営、販売ノウハウの共通化・共有化を進め、既存店の掘り起こしを進めてまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は、既存店の改善が店舗の減少分を上回り207億22百万円（前年同期比1.1%増）となりました。営業利益は、増収に加え前期に閉鎖した不採算店舗の固定費の減少や本部管理費の削減などがあり11億21百万円（前年同期比121.9%増）となりました。経常利益は、負ののれんの償却の増加及び支払利息の減少などにより11億60百万円（前年同期比138.4%増）となり、四半期純利益は、店舗固定資産の減損損失などにより6億19百万円（前年同期は55百万円）となりました。

主なセグメントの業績は次のとおりであります。

<宝飾品>

当第3四半期連結累計期間の宝飾品セグメントの売上高は、194億53百万円となり、営業利益は、10億76百万円となりました。

<眼鏡>

当第3四半期連結累計期間の眼鏡セグメントの売上高は、12億27百万円となり、営業利益は35百万円となりました。

上記セグメントの業績の営業利益については、セグメント間取引消去前の金額を記載しております。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物残高は、前連結会計年度末の34億59百万円より4億77百万円減少し、29億81百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは11億30百万円のプラス（前年同期は14億17百万円のプラス）となりました。これは主に仕入債務の増加16億66百万円、税金等調整前四半期純利益9億43百万円、たな卸資産の減少4億98百万円及び減価償却費2億97百万円等の資金増加と、未払金の減少16億72百万円、売上債権の増加3億48百万円及び負ののれん償却額2億70百万円等の資金減少によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは98百万円のマイナス（前年同期は2億70百万円のマイナス）となりました。これは主に敷金保証金の返還4億41百万円の収入と、固定資産の取得3億69百万円、敷金保証金の差入1億2百万円及びその他の投資活動による支出67百万円（純額）の支出によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動におけるキャッシュ・フローは15億8百万円のマイナス（前年同期は21億45百万円のマイナス）となりました。これは主に長期借入金の増加7億34百万円（純額）の収入と、短期借入金の減少12億87百万円（純額）、社債の償還7億48百万円及び配当金の支払1億11百万円等の支出によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

現時点において、平成22年5月17日付「平成22年3月期 決算短信」で公表した業績予想を変更しておりません。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

(簡便な会計処理)

①一般債権の貸倒見積高の算定方法

貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

②たな卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末におけるたな卸高の算出に関して、実地たな卸を省略し、第2四半期連結会計期間に係る実地たな卸高を基礎として合理的な方法により算定しております。

③固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している減価償却資産については、当連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定しております。

④法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異の発生状況に著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度決算において使用した将来の業績予測及びタックス・プランニングを利用し、算定しております。

(特有の会計処理)

税金費用の計算

税金費用については、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益又は損失に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

(連結の範囲に関する事項の変更)

①連結の範囲の変更

文昌白鳥珍珠有限公司は、重要性に乏しいため、第2四半期連結会計期間末において連結の範囲から除外しております。

②変更後の連結子会社の数

5社

(会計処理基準に関する事項の変更)

資産除去債務に関する会計基準の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益及び経常利益は、それぞれ4,003千円減少し、税金等調整前四半期純利益は、23,753千円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は24,982千円であります。

(表示方法の変更)

四半期連結貸借対照表関係

前第3四半期連結会計期間において流動負債に掲記しておりました「未払金」は、当第3四半期連結会計期間において負債及び純資産の合計額の100分の10以下となったため、流動負債の「その他」に含めております。なお、当第3四半期連結会計期間の流動負債の「その他」に含まれる「未払金」は729,265千円であります。

四半期連結損益計算書関係

前第3四半期連結累計期間において営業外収益に掲記しておりました「受取手数料」は、当第3四半期連結累計期間において営業外収益総額の100分の20以下となったため、営業外収益の「その他」に含めております。なお、当第3四半期連結累計期間の営業外収益の「その他」に含まれる「受取手数料」は37,120千円であります。

税金費用の計算について、当第3四半期連結累計期間においては、四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理によっているため「法人税等調整額」を法人税等を含め「法人税等合計」に掲記しており、前第3四半期連結累計期間においては、原則法によっているため「法人税、住民税及び事業税」及び「法人税等調整額」に区分して掲記しております。

「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成20年12月26日）に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成21年3月24日 内閣府令第5号）の適用により、当第3四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」を表示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係

前第3四半期連結累計期間において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めて表示しておりました「負ののれん償却額」は重要性が増したため、当第3四半期連結累計期間では区分掲記しております。なお、前第3四半期連結累計期間の「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含まれる「負ののれん償却額」は188,954千円であります。

(追加情報)

重要な引当金の計上基準

投資損失引当金

関係会社への投資に係る損失に備えるため、当該会社の財政状態等を勘案して必要額を計上しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,281,791	3,759,718
受取手形及び売掛金	2,632,436	2,282,737
商品及び製品	9,945,281	10,326,229
仕掛品	1,324,562	1,300,250
原材料及び貯蔵品	1,427,626	1,575,184
その他	540,706	770,693
貸倒引当金	△1,305	△1,317
流動資産合計	19,151,098	20,013,497
固定資産		
有形固定資産	2,622,848	2,669,635
無形固定資産	404,098	363,828
投資その他の資産		
敷金及び保証金	5,397,914	5,678,920
その他	3,426,206	3,226,359
投資損失引当金	△137,800	—
貸倒引当金	△12,719	△4,096
投資その他の資産合計	8,673,601	8,901,183
固定資産合計	11,700,549	11,934,647
資産合計	30,851,647	31,948,144
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,569,695	1,905,621
短期借入金	2,037,000	3,324,500
1年内返済予定の長期借入金	3,461,820	3,925,580
1年内償還予定の社債	946,000	1,066,000
未払法人税等	168,187	193,515
引当金	189,701	307,767
その他	1,316,566	2,907,743
流動負債合計	11,688,970	13,630,728
固定負債		
社債	820,000	1,448,000
長期借入金	5,904,890	4,706,900
負ののれん	1,105,524	1,376,228
退職給付引当金	1,252,946	1,193,343
役員退職慰労引当金	375,984	336,515
その他	279,898	302,477
固定負債合計	9,739,242	9,363,464
負債合計	21,428,213	22,994,193

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,571,841	1,571,841
資本剰余金	3,384,088	3,403,618
利益剰余金	4,474,536	3,939,602
自己株式	△146,160	△142,271
株主資本合計	9,284,305	8,772,790
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	252,683	251,567
為替換算調整勘定	△113,555	△70,406
評価・換算差額等合計	139,128	181,161
純資産合計	9,423,434	8,953,951
負債純資産合計	30,851,647	31,948,144

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	20,505,056	20,722,102
売上原価	8,018,821	7,944,158
売上総利益	12,486,235	12,777,943
販売費及び一般管理費	11,980,710	11,656,198
営業利益	505,524	1,121,745
営業外収益		
受取利息	5,191	1,211
受取配当金	39,431	38,280
負ののれん償却額	188,954	270,704
受取手数料	59,625	—
為替差益	3,178	—
その他	63,307	94,657
営業外収益合計	359,689	404,852
営業外費用		
支払利息	325,483	271,245
為替差損	—	52,573
その他	52,892	41,991
営業外費用合計	378,375	365,811
経常利益	486,838	1,160,787
特別利益		
貸倒引当金戻入額	877	—
投資有価証券売却益	3,445	1,700
保険解約返戻金	15,229	—
固定資産売却益	—	9
受取補償金	9,297	—
特別利益合計	28,849	1,709
特別損失		
固定資産除売却損	64,890	40,448
店舗閉鎖損失	28,135	3,203
減損損失	58,698	87,869
事務所移転費用	2,544	52,421
投資有価証券売却損	278	—
投資有価証券評価損	77,661	15,614
貸倒損失	6,000	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	19,749
特別損失合計	238,208	219,307
税金等調整前四半期純利益	277,480	943,189
法人税、住民税及び事業税	161,983	—
法人税等調整額	18,086	—
法人税等合計	180,069	324,086
少数株主損益調整前四半期純利益	—	619,103
少数株主利益	42,292	—
四半期純利益	55,117	619,103

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	277,480	943,189
減価償却費	336,999	297,632
減損損失	58,698	87,869
負ののれん償却額	—	△270,704
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△4,906	8,611
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	16,222	60,252
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△56,786	39,469
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△155,403	△118,065
受取利息及び受取配当金	△44,623	△39,491
支払利息	325,483	271,245
投資有価証券評価損益 (△は益)	77,661	15,614
売上債権の増減額 (△は増加)	△286,966	△348,572
たな卸資産の増減額 (△は増加)	273,194	498,991
仕入債務の増減額 (△は減少)	286,914	1,666,210
未払金の増減額 (△は減少)	1,133,277	△1,672,125
その他	△351,084	47,684
小計	1,886,158	1,487,810
利息及び配当金の受取額	44,510	39,437
利息の支払額	△324,683	△259,796
法人税等の支払額	△188,406	△137,020
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,417,578	1,130,430
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△372,000	—
定期預金の払戻による収入	129,000	—
固定資産の取得による支出	△420,155	△369,885
敷金及び保証金の差入による支出	△37,750	△102,622
敷金及び保証金の回収による収入	430,842	441,194
その他	△163	△67,065
投資活動によるキャッシュ・フロー	△270,227	△98,379
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	2,343,728	△1,287,500
長期借入れによる収入	510,000	4,054,000
長期借入金の返済による支出	△3,794,360	△3,319,770
社債の償還による支出	△948,000	△748,000
割賦債務の返済による支出	△78,474	△52,590
リース債務の返済による支出	△18,134	△19,790
長期未払金の返済による支出	△31,404	—
配当金の支払額	△43,428	△111,688
少数株主への配当金の支払額	△84,964	—
その他	△28	△23,419
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,145,067	△1,508,758
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,773	△730
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,000,488	△477,438
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	—	△489

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
現金及び現金同等物の期首残高	3,788,764	3,459,718
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,788,275	2,981,791

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)

	宝飾品小売事業 (千円)	宝飾品卸売事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	20,074,750	430,306	20,505,056	—	20,505,056
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	127,882	127,882	△127,882	—
計	20,074,750	558,188	20,632,939	△127,882	20,505,056
営業利益	434,897	68,488	503,386	2,137	505,524

(注) 1. 事業区分は内部管理上採用している区分によっております。

2. 事業区分の主な内容

- (1) 宝飾品小売事業 店舗販売・展示会販売等
- (2) 宝飾品卸売事業 国内販売・ルート販売等

[所在地別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)

全セグメントの売上高の合計に占める日本の割合が90%を超えるため、記載を省略しております。

[海外売上高]

前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)

海外売上高が連結売上高の10%未満であるため、記載を省略しております。

[セグメント情報]

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、主に宝飾品及び眼鏡の製造販売を営んでおり、製品ごとに連結会社がそれぞれ事業展開を行っております。

したがって、当社は「宝飾品」及び「眼鏡」を報告セグメントとしております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年12月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	宝飾品	眼鏡	計				
売上高							
外部顧客への売上高	19,453,644	1,227,752	20,681,396	40,705	20,722,102	—	20,722,102
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	19,453,644	1,227,752	20,681,396	40,705	20,722,102	—	20,722,102
セグメント利益	1,076,281	35,454	1,111,736	△3,383	1,108,352	13,393	1,121,745

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、服飾品等の販売事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額13,393千円は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間において、「宝飾品」セグメント及び「眼鏡」セグメントにおける店舗の設備等の固定資産について、それぞれ58,175千円及び29,694千円の減損損失を認識いたしました。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。